

January

# コロニーやまがた

2025.1

No.22



シード天童のこどもたちが作った「お正月アイロンビーズ」

## INDEX

- 02 年頭あいさつ
- 03 JDF能登半島地震支援
- 04 コロニー祭り開催
- 06 各福祉サービス事業活動紹介
- 08 アビリンピック全国大会／ゼンコロ版アビリンピック  
ゼンコロリーダー研修
- 09 仲間たちの声／人権を考える
- 10 就労支援技事業販売／事業報告  
今後の予定／編集後記

# COLONY YAMAGATA

## 新年のご挨拶

理事長 須貝 壽一

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、社会福祉法人山形県コロナ協会の活動に多大なるご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。皆さまの力添えのおかげで、私たちは地域社会において必要な福祉サービスを提供し続けることができました。

昨年は、JDF（日本障害者フォーラム）による能登半島災害支援活動に当協会から2名の職員が参加し、被災地での支援活動を通じて福祉の力を地域復興に役立てることができました。この経験を今後の活動に活かし、引き続きJDFの活動にも積極的に参加してまいります。

一方で、私たちの印刷事業は厳しい状況に直面しています。デジタル化が進む中で、従来の印刷需要が減少し、事業の継続に多くの課題が生じています。こうした状

況を踏まえ、今年はデジタル化事業の強化に力を入れ、新たな価値を創造しながら、地域の皆さまに貢献できる事業展開を目指していきます。

さらに、福祉の分野では職員の専門性向上と質の高い福祉サービスの提供に努め、地域社会との連携を深めながら、より良い支援を実現してまいります。

2025年も、利用者の皆さまをはじめ、地域住民の方々にとっ て頼れる存在であり続けるために、職員一同、心を一つにして取り組みでまいりますので、引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



## 新年の抱負2025

常務理事 鈴木 宏

新年あけましておめでとうございます。2025年は巳年で

す。蛇は脱皮を繰り返すことから、「生命力」と「復活・再生」を表す縁起ものと言われます。近年は新型コロナ禍を筆頭に、物価高騰等の社会不安が重なり、事業業績等にも深刻な影響を受ける期間が続きました。今年こそは、巳年の縁起にもあやかっ て山形コロナとして就労支援事業も福祉事業も業績を復活・再生させ、共に働き苦労を重ねてきた努力を結実し、心から働く喜びを分かち合える1年にしたいと考えております。

特に、A型福祉工場は、印刷事業の活気回復と、国立国会図書館の書籍デジタル化生産体制を強化します。また、文書や図面等のデジタル化受注のための自主営業展開を推進します。B型コロナセンターもデジタル化事業の共同運営体制をより一層進め、

働きがいと工賃の両面での向上を目指します。

また、福祉事業では、当法人の各事業の特色が地域により広く伝わるよう発信力を強化し、より地域から選ばれる事業運営に努めます。何よりも、働く一人ひとりがコロナの従業員としての自覚と誇りを高め、社会や仲間 に貢献できる人材育成を進めてまいります。

本年も、変わらぬご愛顧の程、よろしくお願い申し上げます。



# JDF能登半島災害支援

2023年7月～8月



輪島市 朝市の火災現場の様子

当法人職員2名を、ゼンコロの一員として、現地JDF支援センターに派遣しました。被災地では、一年経過した現在でも、多くの方が困難を抱え生活しています。

私たち山形コロニーとゼンコロは、今後も継続して同支援センターの支援活動に参画し、支援が必要な方へ支援を届ける協力を続けてまいります。皆様のご理解とご協力をお願いします。

## JDF能登半島災害支援に参加

2011年3月11日の東日本大震災当時は災害支援に参加できず、ただただ日々の情報を見聞きしているだけでした。あれから10年以上経過してしまいましたが、初めて災害支援に参加しました。『被災地』を目の当たりにすると、言葉にならないことばかりでした。地震発生から半年経過してもなお、拠点の和倉温泉の建物は傾き、道路も修繕されていません。輪島の朝市の火災現場や倒壊した建物、珠洲の津波被害も、当時のままの状態です。こういった現状で「生活の立て直し」を進めることの難しさ、サポート体制の

構築の必要性を感じました。移動手段や住まいの場の確保、手続きの煩雑さ、今後の生活の見通し等、課題は多岐に渡りますが、1つ1つ関わることで整理されていきました。これからの日常を送っていく継続したサポートはまだ必要です。ぜひ現地に行つて、見て、動く経験を1人でも多くしてほしいと願っています。

(細谷)



## 現地で支援する大切さ

私は、「第12クルール」7月28日(日)～8月3日(土)6泊7日の日程で支援活動に参加してきました。震災6か月後の能登半島は、まだ道路には至る所に亀裂が走り、見渡す限り倒壊した家屋が連なる強烈な光景でした。地震が

きっかけで障がい者福祉制度と繋がっていない人が支援を利用できるようにするなど、JDF活動の輪が広がっています。支援内容も変わり家の片付けの他に、夏休みスタートによる奥能登放課後デイサービス送迎が始まりました。実際に現地に足を運ぶことによる、道路の遮断・施設不足による長距離通所。仮設住宅入所期間2年の不安。職員不足で事務作業をする時間が取れない。まだまだ支援が足りてない状況でした。私達だから出来る支援もあります。1日でも早く安心・安全な街を取り戻せるように、継続的な支援に入る事が必要であると感じました。

(板垣)



# 第20回 コロニー祭り 桜田南

## 2024年



2024年  
10月19日(土)  
11:00~14:00



第20回コロニー祭りは、多くの人に  
来場してもらいたい、地域の方々にもつ  
とコロニーを知ってもらいたいという  
想いで準備に取りかかりました。  
一般来場者の集客、ステージイベント  
の開催、模擬店など試行錯誤しながら  
の準備となり、右往左往するばかりで  
した。しかも、当日は雨の予報。これま  
でのコロニー祭りの歴史においても数  
回しかない雨。本当にどうなることか  
と思いました。  
当日は祭りの最中に雨に降られる  
ことなく、大盛況の内に開催するこ  
とできました。  
来場された皆様、ステージ発表で  
鮮やか舞を披露して下さった桜田大黒  
舞保存会の皆様、元氣いっぱい演奏  
をして下さったひまわりこども園の皆  
様、その手元に多くの注目を集めみん  
なを笑顔にしたMr.はてな様、おしい  
玉こんを販売して下さい下さったみちのく  
台こんにやく道場様、会場設営のため  
にご協力いただいた地域の公民館や  
企業の皆様、多くの方々の支えでコロ  
ニーは事業をすることができているこ  
とを実感できた一日でした。  
本当にありがとうございました。  
(佐藤)



SAKURADAMINAMI



# 第3回 天童コロニー祭り

2024年



2024年  
10月19日(土)  
11:00~14:00



今回初めて天童でのコロニー祭りに参加させて頂きました。実行委員長という立場でもありましたので、不安と緊張のスタートとなりました。昨年4年ぶりに開催となりましたが、感染症の影響で食べ物の提供や外部イベント等はなく、規模を縮小した祭となりました。今年は制限なく開催できることとなりましたので、より祭らしさを出せるようにと取り組んできました。時間的な余裕がなく地域の方々への広報や周知が不足してしまい、集客が伸び悩んだことはしっかりと反省し次回につなげたいと思います。それでも職員・ボランティアの皆様のご協力もあり、ケガ人も出ることなく、天気も大きく崩れず、無事終えられたことで祭は成功だったと思っています。  
(赤坂)



TENDO



## 各事業所の活動紹介

## 就労継続支援A型

A型事業部(福祉工場)は営業(職員3名、利用者2名)、生産課(職員6名、利用者22名)と、昨年度から新たに稼働したデジタル課(職員4名、利用者4名)からなります。

生産課では、一般印刷物(冊子・パンフ・チラシから帳票・はがき・封筒等)の受注から納品までの一貫生産を行っており、デジタル課では、従来の紙媒体の蓄積資料のデジタル化(電子ファイル化)に取り組んでいます。

昨今の時代の流れの中で、印刷事業に於いては、福祉工場からA型事業への変換、資材費の高騰、受注数の減少、利用者の高齢化による人員減少等様々な環境の変化があり…。また、デジタル化事業に於いては生産性UP、新規販路の拡大等様々な課題がありますが、各々の役割を持ち利潤を得るべく日々業務にあたっています。(吉田)

## 放課後等デイサービス(山形)

## 生活の力を伸ばしていきたい

自分でできるようになると生活の幅が広がるのが色々あります。

1から10まで数える事、袋を自分で開けられること、ひもを結ぶこと(1回結び、片りボン結び、蝶結び)、輪ゴムでまとめること、かさを使うこと、整理整頓すること、タオルや服をたたむことなど、日常生活の様々な場面の『生活の力』について、シードでも取り組んでいます。難しい時には様々な便利グッズを活用するのも一つの手段です。ご家庭と連携しながら一緒に練習していきたいと思っています。(塚野)



数を数えるツール

ひも結びの練習



## 児童発達支援

## お祭りを一緒に楽しもう!

今年のお祭りでは「普段していることを発揮する場面をもちたい」と思い、お子さんや保護者の皆さんと色々な体験を積む時間を過ごしました。遊び場では、顔を見て挨拶をしたり、出店では、チケットを渡して受け取ることができました。いつもしていることを、環境が変わっても挑戦している姿がたくさんありました!地域の方々からの挨拶も、目で見たり、耳を傾けようとしていたり、一人ひとりが参加しようとしていました。日常の活動で力を溜めて、発揮できるように、これからも取組んでいきたいと思っています。(細谷)



## 放課後等デイサービス(天童)

## 親子ボーリング大会

シード天童では、親子ボーリング大会を行いました!

ボーリング場に行くのも初めてのお子さんが多く、広いボーリング場に子どもたちはキョキョロ周りを見渡して興味津々でした。

ガーターなしのレーンを使い、重い球を転がすことができる補助台もあったので、小学校低学年でも楽しむことができました。親子で応援し合いながら、スヘアやストライクが出る自然と拍手をしたり、ハイタッチをして楽しくコミュニケーションをとる事ができました。また、走らないで歩く、借りた靴や球は元の場所に戻す等、公共の場でのルールも学ぶことができました。

今回の活動をきっかけに、それぞれの家庭で、親子で余暇を楽しんでいたければ嬉しいです。(板垣)



## 就労継続支援B型

## 訓練の成果〜映画館にて〜

コロナセンターでは毎年、作業場にて映画鑑賞会を企画しており、イベントを通じて、受付での対応、映画鑑賞マナー、鑑賞中の飲食マナー、接客体験などの訓練を行ってまいりました。その訓練の成果を実際の映画館でも発揮すべく映画館の方のご協力もいただき、実際の映画館を一部屋貸し切りでの鑑賞会を行いました。皆さん場面ごとのマナーをしっかりと守り、自主的に行動することができていました。今後皆さんが訓練の成果が実るような機会を増やしていきたいと思えます。

(花輪)



## 共同生活援助

## グループホーム・安心感のある暮らしとは

共同生活援助事業はサービスの内容によつて3種類に分けられ、その一つに「外部サービス利用型」があります。現在、6カ所を運営し、その特徴は、介護サービスを外部へ委託している事です。調理や掃除、就労施設との連携など、介護以外の支援を手掛けている。暮らししている方も、親の高齢化や単身生活に不安があるなど、様々な事情を抱え入居しており、それを日々支えているのは、世話人、看護師、支援員の方です。日常生活の中で、相談や助言等、一人一人に向き合った支援をすることで、入居者の方は安心して暮らす事ができます。特に世話人さんの存在は大きく、少しの変化も見逃さず、家族のような声掛けをして頂いています。また、休みの日は実家に帰省する人、コンサートや買い物に行くなど自分らしく生活しています。衣食住の生活環境が整っていれば、元気に働き自立した生活を送ることが出来ます。日々の小さな積み重ね、そういうサポートが大切だと改めて感じています。

(斉藤)

## 就労移行支援・定着支援

## ふれあい合同面接会を経て

就サポでは9月のふれあい合同面接会に向けて、約1ヶ月間準備を進めてまいりました。

8月「就労生活セミナー」ではハローワーク山形の方より、障害者雇用についてのお話を聞きました。週1回の面接会準備の時間では、企業のことを調べ、志望動機や配慮して欲しいことなどを面接カードにまとめます。自力通勤が可能かを調べるのも重要です。事前にスーツを着用し、面接時の身だしなみや立ち居振る舞いもチェックしました。

面接会から次のステップに進む方、今後自分を取り組むべき課題が見えた方、それぞれの目標への道のりは続きます。

(長田)



## 村山障害者就業・生活支援センター

## 発達障がいの方々向け

## コミュニケーション講座開催

県立山形職業開発専門校の「在職者スキルアップ講座」とふうれの企画をタイアップし、プレセントタイムの塩野貴美先生を講師に迎え、「コミュニケーション」講座を4回シリーズで実施しました。

講座内容は「コミュニケーションとは?」「もつとコミュニケーションを知ろう」「自分も相手も大切にしよう」「チームを大切にしよう」の4つ。参加者は積極的に取り組み、充実した学びの場となりました。

参加者からは「職場で一言を発するとところから緊張する」という声や、「明るい気持ちになることができた」「毎回充実していた」「体験型の講座で分かりやすかった」との感想が寄せられました。講座を通じて自分と向き合える時間となりました。(浅倉)



## アビリンピック全国大会



第44回全国アビリンピックが11月22日(金)～11月24日(日)の3日間、愛知県国際展示場で開催されました。

当法人の山形福祉工場からは、DTP、オフィスアシスタントの2種目に2名が山形県代表の一員として参加いたしました。

県大会とは違い、会場も広く全国からの参加者や観戦者が多く、緊張しているのが私にも伝わりました。

各県から代表として参加されている方々の意識も高く、入賞を目指しているのが競技中の姿からも感じることができ、いい刺激になったのではないかと思います。

今回、惜しくも入賞できませんでしたが、この経験を活かしてさらに新しいことに挑戦してほしいと思います。選手の皆さん、大変お疲れ様でした。  
(田村)



福祉工場 後藤 亮介

初めて臨んだ全国アビリンピックは、最後まで慌ただしい一日となりました。それでも、時間内に作品を完成できました。

競技を通して、全国の技能の高さを知るいい経験となりました。この経験を日々の業務に活かしていこうと思います。

福祉工場 鈴木 博一

全国大会に向けてたくさん練習をしました。本番は、緊張してクリップとじが上手にできませんでした。仕分け作業は練習どおりにできました。来年もまた全国大会に出場できるように、日々の仕事と練習を頑張りたいです。



## ゼンコロ版アビリンピック

福祉工場 佐藤 恵美

先日、ゼンコロ版アビリンピックのDTP競技に参加しました。二年ぶり四回目の参加でしたが、当日は、とても緊張しましたが、時間内に作品を提出できホッとしました。

今回は、指示に沿って、事前に企画、レイアウト、素材・文字の準備をし、当日に配布されたテキストも加え、作品を完成させるという、今まで体験したことのない内容でした。

準備段階ではわくわくしていましたが、思ったように作れず、上司の方に助言をいただきながら本番当日をむえました。今回も、学ぶことがたくさんあり、今後の仕事に活かしていきたいと思っています。



## ゼンコロリーダー研修

### ゼンコロリーダー研修に参加して

9月12日～13日の日程でゼンコロリーダー研修に参加させていただきました。初日は法律や制度の歴史、ゼンコロ国際交流事業の展望について学び、2日目は支援者に求められる職員のスキル・視点とメンタルケア、組織チーム作りについて学びました。福祉で働く職員として改めて人権や合理的配慮等について考える機会になりました。「向き合うのは問題ではなく一人の人であることを忘れない」「困難ケースは支援者のスキル不足」という話を聞き、対応しているという意識ではなく、勉強させてもらっているという意識を持つことが大切だということに気づきました。集合研修という形で全国のコロニーの仲間と意見交換や悩みを共有することができとても充実した研修となりました。研修で得た支援のヒントを日々の業務に活かしていきたいです。  
(阿部)



## 仲間たちのこえ

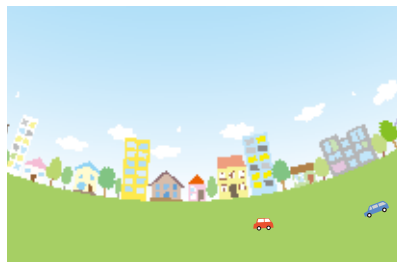


## 今年を振り返って

シード天童

A.K

シード天童の活動で思い出に残っているのはパンケーキ作りと販売体験です。自分で焼いたパンケーキにトッピングをして食べたのがとても楽しかったです。販売体験では、接客練習を頑張りました。本番はお客さんがたくさん来てくれて、ちよっと緊張したけどパンが売り切れて嬉しかったです。いま私は学校の勉強、特に算数と外国語と宿題を頑張っています。楽しみは絵画教室に通うことです。大きな段ボールにたくさん絵を描いています。これからも勉強を頑張りながら、好きな絵をたくさん描いて上手になりたいです。



## 地域とのふれあい

グループホーム

阿部 進

精神科から退院して、あるGHに入る時、その近所の人から「これからはここがあなたの家だから安心して生活してください」と言われた。近所の人と冬は一緒に雪かき、夏は公園の草取り、楽しかった。今、別のGHに移って(気持ち)がマイナスになってしまっている。「それはダメだ」とまた移ってゆっくりプラスのことを考える。出来る限りがあるけど…。



## 時々自分を振り返りつつ、前を向こう

コロニーセンター

金子 裕貴

仕事を引き受けた以上は責任をもってするのが私の信念です。できる限り頑張るという姿勢で色々な仕事にチャレンジしてきました。軽作業の他にもPC業務、書籍や資料の電子化にもチャレンジしています。こだわり過ぎる癖もありますが、以前より柔軟に対応できるようになったと感じています。健康も大事な仕事の一部分なので体調管理をしながら、更にステップアップできるように前向きに頑張っていきたいです。

シリーズ

人権を考える

## 子供社会の合理的配慮

放課後等デイサービス

シード天童

堀

佳子

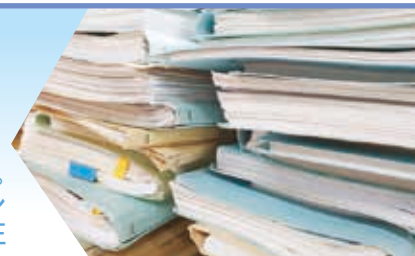
NO.4

平成28年の「障がい者差別解消法」の施行により、学校においても、障がいのある子供たちに必要な「合理的配慮」を提供することが求められています。学校において適切に「合理的配慮」を提供することにより、障がいのある子供達の学習や生活の質の向上を図ることを目的としています。障がいのある子供が、障がいのない子供と平等に「教育を受ける権利」を享有し行使することを確保するものです。

私たちは、子供たちが抱える困難について理解し受容を深めながら、ともに認識し、うまく対処できるコツを一緒に確認していくことが支援者の役目と考えます。子供の特性や困り事は、学校生活上の場面や環境によっても異なりますが、学校関係者や周りの人々の対話や協力を仰ぎながら、一人ひとりに合わせた配慮を考え、伝えていくことが大事です。

学校では、だれもが等しく教育を受ける権利を持っています。例えば、席替えの時に、視力の悪い子を黒板が見えやすい前の席にする等、当たり前のこととされてきました。環境の配慮だけではなく、一人ひとりが多様な人を思いやり尊重し「一緒にしよう」の言葉かけで支え合えたら、偏見のない社会生活へ繋がっていくのではないかと思います。

# 紙文書のスキャンニング(電子化)で オフィスの無駄を一気に解消しませんか?



私たちは新たな事業として資料のスキャンニングサービスを開始いたしました。紙文書の山を電子化して、スペースと時間を節約しませんか?高品質なスキャンニングを障がいのあるスタッフが心をこめて一枚一枚スキャンしています。迅速かつ正確な電子化をお約束し、大容量の資料もお任せください。

**[業務効率が劇的に高まります。]**

## ほしい情報がすぐに見つかる

膨大な書類も、電子化してしまえば瞬時に検索・閲覧することが可能となり、業務効率は格段にアップします。複数の拠点でそれぞれ管理していた資料・文書も、文書管理システムでつなげばすべての拠点で共有できます。

## 保管スペースを一気に削減

オフィスにあふれる書類を電子化して処分すれば、使えるスペースが大きく広がります。書庫からの持ち出し管理など、保管に伴う負担から解放され、用紙の無駄もなくなります。

## 貴重な原本も、電子化すれば安心

長期間にわたり保管している文書や書籍は、劣化・汚損・破損などが心配です。1冊しかない原本などを万一の事故や災害で失わないためにも、電子化は必須の選択です。

## 本の解体をしないでデータ化 できます!

### 非破壊スキャン

貴重本や保管が必要な文書は、原本を断裁せずにそのままスキャンできます。

### 再製本

1冊しかない貴重な本は、スキャンして再製本することで、気軽に閲覧できるようになります。



ブックスキャナ

## 書類や書籍の他、 様々な資料の電子化もできます!!

- 各種文書 ●ポスター、出品作品、受賞作品などの1点もの
- 絵図・軸装などの大判 ●ポジフィルム、ネガフィルム
- カセットテープ音源 ●VHS映像 など

その他、なんでもご相談ください!

お問い合わせ先

山形福祉工場

TEL 023-641-1136



### 今後の予定

- 1月6日 年頭挨拶
- 17日 苦情直接受付(天童拠点)
- 2月15日 職員研修日
- 20日 苦情直接受付(桜田南拠点)
- 3月15日 第271回理事・監事会

- 7月15日~7月20日 JDF能登半島地震支援センター職員派遣
- 7月28日~8月3日 JDF能登半島地震支援センター職員派遣
- 8月17日 職員研修
- 29日 苦情解決合同委員会
- 9月19日 第269回理事・監事会
- 10月19日 地域交流会
- (桜田南拠点・天童拠点)
- 24日 総合防災訓練(桜田南拠点)
- 30日 総合防災訓練(天童拠点)
- 11月6日 第270回理事・監事会
- 7日 苦情直接受付(桜田南拠点)
- 9日 職員研修日
- 12月19日 第271回理事・監事会

社会福祉法人山形県コロニー協会  
令和6年7月~12月 事業報告

22号

2025.1 January

2025年1月15日発行

■ 山形県コロニー協会  
〒990-2322 山形県山形市桜田南1-19  
TEL 023-641-7335 FAX 023-641-7368  
発行責任者 須貝 壽一

<http://www.yamagata-colony.or.jp/>



### 編集後記

令和7年の干支は「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく乙巳(きのこ)み)年になります。デジタル化が進んだ事で、世の中、本当に目まぐるしく変わっていきませんが、柔軟な発想を持ち、皆様と共に実りのある一年にしていきたいです。

コロニー山形も色々な話題を提供していきます。今年もどうぞ宜しくお願いいたします。(斉藤)